

新型コロナウイルス感染症の影響に関する心のケアアンケート 第1回調査結果

1 実施概要

(1) 調査の趣旨

新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業により、児童生徒は自宅で多くの時間を過ごすことになった。学校再開に伴い、感染症への恐れや学校生活への不安、保護者のストレスから虐待を受けているケース等、心理的ストレスを抱えている児童生徒が存在すると考えられる。

そこで、これから長期間にわたる新型コロナウイルスへの対応が想定されることから、精神的に不安定な状況にある児童生徒の状況を把握し、その心の理解とケアへの取組に資する。

(2) 調査実施期間

第1回	令和2年7月13日～31日
第2回	令和2年9月14日～10月30日
第3回	令和3年1月予定

(3) 調査対象

校種	学校数	学級数	児童生徒数	備考
小学校	48	730	16,806	神戸市16校 ・小学校8校、中学校8校 他各市町2校抽出 ・小学校：1校、中学校1校
			低学年（1～3年）8,278	
			高学年（4～6年）8,528	
中学校	48	595	16,883	
高等学校	60	180	6,037	60校抽出 ・全日制：51校、定時制：9校
計	156	1,505	39,726	

(4) 調査の内容

大項目	小項目
① 新型コロナウイルス感染症への理解について	3項目
② 心とからだのストレスについて	5項目
③-1 毎日の生活について	9項目 (小学校3年生以下は4項目で実施)
③-2 ゲーム・SNSの使用時間について	1項目 (小学校4年生以上で実施)

2 調査結果と分析

(1) 小項目ごとの児童生徒の回答状況

ア 「① 新型コロナウイルス感染症への理解について」(3項目)

- ・「知らない」「あまり知らない」と回答した割合が、小学校低学年では、約 20-30% の範囲にあり、他学年と比べ高い。(小学校高学年：約 10%、中学校：約 6%、高校：約 6%) 【P. 5 : ①-A B C】
- ・高校では、「コロナウイルスが自分や家族にうつった時、どうしたらよいか知っていますか」の質問で、「知らない」「あまり知らない」と回答した割合が、約 24% で、他項目に比べて高い。 【P. 5 : ①-D】

① 新型コロナウイルス感染症についての正しい知識や感染症が身近に起こったときの対応に課題が見られる。

イ 「② 心とからだのストレスについて」(5項目)

- ・「なかなか眠れないことがある」の質問で、「ひじょうにある(ほぼ毎日)」と回答した小学校低学年の割合は、13.4%である。(小学校高学年：6.3%、中学校：4.0%、高校：3.7%) 【P. 6 : ②-A】
- ・「こわくて落ち着かないことがある」の質問で、「ひじょうにある(ほぼ毎日)」と回答した小学校低学年の割合は、10.6%である。(小学校高学年：3.4%、中学校：1.3%、高校：1.4%) 【P. 6・7 : ②-C】
- ・「自分が悪い(悪かった)と責めてしまうことがある」の質問で、「かなりある(3～5日)」「ひじょうにある(ほぼ毎日)」と回答した児童生徒の割合は、小学校低学年 15.6%、小学校高学年 12.9%、中学校 14.2%、高校 14.0%である。 【P. 6・7 : ②-D】

② ストレス反応を示す児童生徒が存在することを認識した上での対応が求められる。

ウ 「③-1 毎日の生活について」(小学校3年生以下：4項目、4年生以上：9項目)

- ・「手洗いは、石鹸で指の間や手首まで洗う正しい手洗いをしている」「せきエチケットを守っている」の質問で、「あてはまる」「すこしあてはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校低・高学年とも約 90%、中学校・高校で約 80-85%の範囲内である。 【P. 8・9 : ③-1-A B】
- ・「自分の気持ちがリラックスする方法を知っていて、実際にやっている」という質問で、「あてはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校高学年 34.8%、中学校 29.9%、高校 27.9%である。 【P. 8・9 : ③-1-F】
- ・「ゲームや趣味の時間については、約束事やルールを作り、それを守っている」という質問で、「あてはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校高学年 45.7%、中学校 26.9%、高校 17.2%である。 【P. 8・9 : ③-1-G】
- ・「困ったことがあったとき、人に助けを求める」という質問で、「あてはまる」「すこしあてはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校低学年 74.7%、小学校高学年 69.5%、中学校 64.8%、高校 63.2%である。 【P. 8・9 : ③-1-H】

③ 児童生徒自身でリラックス方法を行うこと、生活での約束やルールを守ること、困った時に相談することなど、実際の行動にまでつながっていない。

エ 「③-2 ゲーム・SNSの使用時間について」（1項目）（小学校4年生以上）

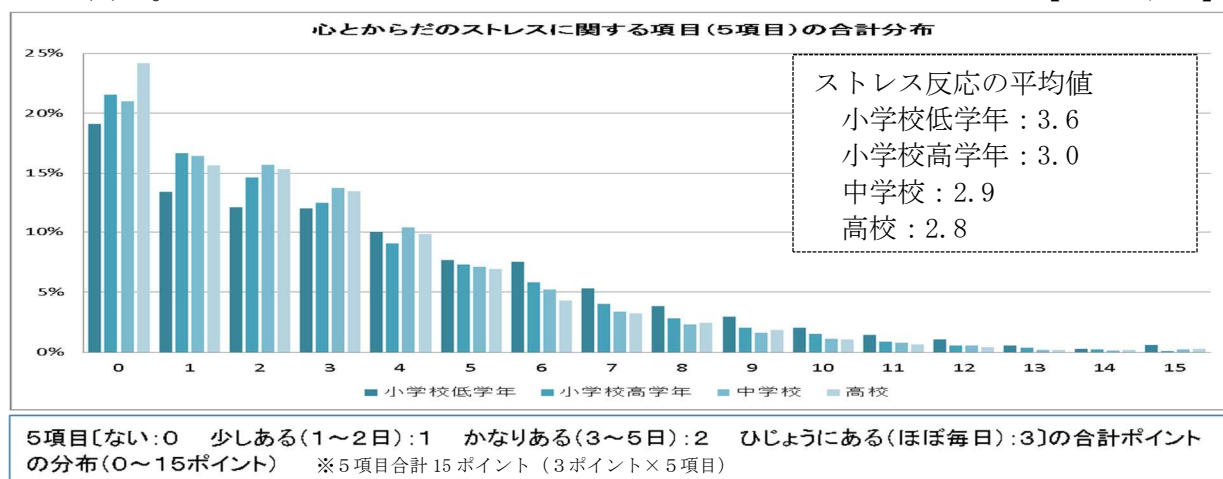
- ・「1日あたりのゲーム・SNS・動画などネットを使っている時間」の質問で、3時間以上使用している児童生徒の割合は、小学校高学年約 21.5%、中学校 33.0%、高校 53.7%である。【P.10：③-2-A】

④ 学年が上がるにつれ、ゲーム・SNS・動画などネットの使用時間が増えており、使用の方法に課題が見られる。

(2) 「心とからだのストレスについて」（5項目）合計ポイントの分布状況

- ・5項目の回答ポイントの合計が7ポイント以上である児童生徒の割合は、小学校低学年 17.9%、高学年 12.4%、中学校 10.3%、高校 10.2%で、各校種とも1割を超えている。

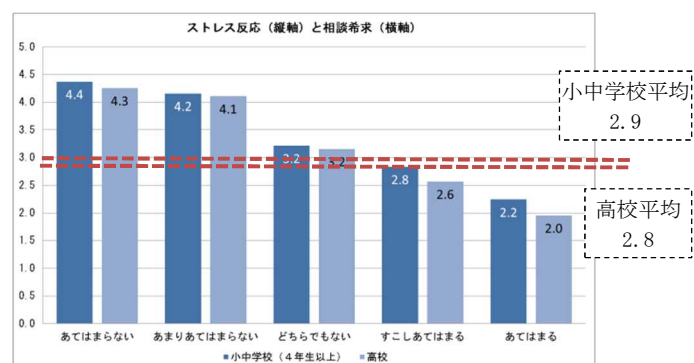
学校や学級にストレスを抱える児童生徒が存在し、小学校低学年のストレス反応が高い。【P.10 下段】



(3) 相関関係の状況（小学校4年生以上）

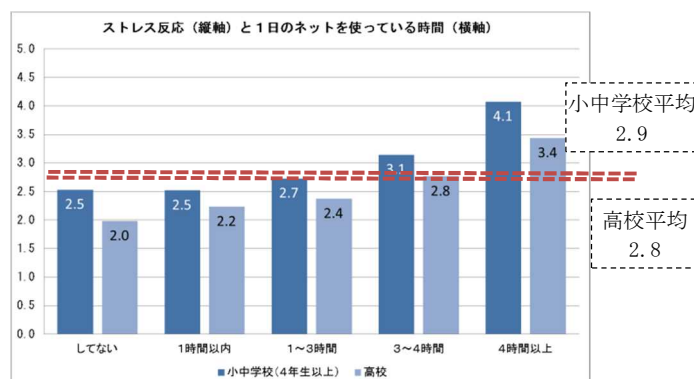
ア 「困ったことがあった時、人に助けをもとめる」と「心とからだのストレスについて」（5項目）の合計ポイント（ストレス反応）の関連

- ・困ったことがあった時、人に助けをもとめる（相談希求）と回答した児童生徒ほど、ストレス反応が低い。



イ 「ゲーム・SNS・動画など、ネットを使っている時間1日あたり、どのくらいですか」と「心とからだのストレスについて」（5項目）の合計ポイント（ストレス反応）の関連

- ・ゲーム・SNS・動画等、ネットを使用している時間が長い児童生徒ほど、ストレス反応が高い。



3 対応策

(SC:スクールカウンセラー、CC:キャンパスカウンセラー、SSW:スクールソーシャルワーカー)

	学校の対応	○専門家の活用 ◇学校への支援
①	・新型コロナウイルス感染症への正しい知識や身近に起こったときの対応について考える授業等、発達段階に応じた特別授業の実施	○SC・CC を活用した特別授業の実施・支援
②	・声かけ等の丁寧な日常観察等による実態把握 ・心のつぶやきを聴く機会や相談窓口を設けるなど、子ども達が安心して相談できる環境の充実 ・ストレスへの対処法等を学ぶ教育活動の工夫	○SC・CC や養護教諭等と連携した健康相談やケース会議の実施 ○SSW 等を活用した関係機関との緊密な連携 ◇SC・CC、SSW を活用した研修会の実施 ◇ひょうごっ子悩み相談、ひょうごっ子 SNS 悩み相談等の相談窓口の再周知
③	・生活における約束やルールを自分で考え、実際の行動へつなげる等、発達段階に応じた自立を促す教育活動の実施 ・リラックス方法を学ぶ教育活動の実施 ・「困った時は大人や友人に相談しよう」等の児童生徒への呼びかけ	○SSW 等を活用した関係機関との緊密な連携 ◇実践事例の周知
④	・長時間使用を単に否定するのではなく、スマホや SNS 等の利用の方法を学ぶ授業の実践	○関係機関と連携したサイバー犯罪被害防止教室等の実施 ◇情報モラル等の指導方法の周知

【新たに行う学校への支援】

1 効果的な実践例の周知

- ・効果的な心のケアに関する教育プログラム（新型コロナウイルス感染症への正しい理解、差別や偏見につながらない授業、ストレスへの対処法 等）の実践事例の収集及び実践事例の周知

2 新たな人的配置による支援

- ・心のケア支援員や SC 等、学校における心のケアを充実させる新たな人的配置による支援

4 今後のスケジュール

9 月下旬

第 1 回調査結果の報告

9 月下旬～10 月下旬

第 2 回調査の実施

- ・保護者アンケートを合わせて実施

12 月初旬

第 2 回調査結果の報告

- ・各項目の変化、同一児童生徒間の変化 等

1 月下旬

第 3 回調査の実施

3 月初旬

第 3 回調査結果の報告

- ・アンケート調査結果のまとめ